

ジェンダーに関する研究

女性の社会進出と男性の生きづらさ

福田悠李

このジェンダーに関する研究、女性の社会進出と男性の生きづらさでは現代にある男女間の賃金の差、セクハラ、パワハラ問題についてなどの女性の社会進出が進むにつれ明らかになってきたジェンダー問題などについて研究してきた。この研究の目的は日本がジェンダー平等に向けて進んでいる現代において問題になっているセクハラパワハラ問題や賃金の差などを解決しよりジェンダー平等に近づけることを目的としている。方法はジェンダー平等の歴史について理解を深め、現代のジェンダー平等の現状を調べ、データなどを使い研究を行った。その結果現代の日本のジェンダー平等においては世界的に見ても遅れていることがわかった。日本でのジェンダー不平等である部分は職場環境や賃金の差が問題となっている。これから日本がジェンダー平等を目指し進むためには現在ある政策の他にもっと女性が社会進出しやすい環境にし、意識的改善を行うことにより、日本はより良いジェンダー平等の社会に近づくだらう。

謝辞

本研究を遂行するにあたり興味深いテーマを与えてくださった、本学部の川野教授、山口教授に深く御礼申し上げます。川野先生の多文化共生論、山口教授のジェンダー社会学に関する講義でジェンダー問題にとっても興味を持ち本卒業論文執筆の原動力となりました。また、ここでは名前を控えさせていただきますが、研究をする上での研究材料収集に協力していただいた方々には厚く御礼申し上げます。皆さんの協力なしには本卒業論文は完成することはできませんでした。また議論を展開するうえで新たな視点、知恵を重ね重ね与えてくださった川野教授、ゼミの皆さんには大変お世話になりました。再び大学でお目にかかれることを楽しみにしています。そして、ゼミナールの場において3年間にわたりご指導いただいた川野教授には心から御礼申し上げます。このような形で卒業論文を書き終えることができたのは、川野教授と川野ゼミの皆さんのおかげです。ありがとうございました。